

「食」の安全性や食料自給率問題への関心の高まりを背景に、改めて日本の農業が脚光を浴びています。大手町博士は、今回から3回にわたって日本の農業をテーマに講義します。1回目は、スーパーや食品メーカーなど企業による農業参入の動きについてです。
(田中左千夫)



講義

永田かすみさん「最近、いろいろな会社が農業を手がけているようです」
大手町博士「そう。規制が緩和され、昔よりも参入しやすくなったのだ」

農林水産省構造改善課・農地流動化調整官の松下哲博さん「企業が農業に参入する仕組みは二つあります。一つは『農業生産法人』という会社を新設したり、既存の法人に出資したりする方式、もう一つは企業自身が農地を借りて社員が農作業にあたる『農地リース方式』です」

神田かぶとくん「参入の具体例を教えてください」
博士「スーパーのイトーヨーカ堂が今年8月、千葉県富里市にセブンファーム富里という農業生産法人を設立した。食品メーカーのカゴメや外食チェーンのワタミなども、同様の取り組みをしている」

セブンファーム富里社長の戸井和久さん「2haの農地で、キャベツやほうれん草などを栽培しています。今週中にも最初の収穫をこなす予定です」
かぶとくん「農業を始めた理由は何ですか」

企業の農業参入

イトーヨーカ堂 	8月、千葉県に農業生産法人を設立。収穫した野菜は自社店頭で販売
カゴメ 	福島県など全国8か所でトマトをハウス栽培し、生食用として販売
ワタミ 	北海道や千葉県などで野菜を有機栽培。酪農や鶏卵、畜産事業も展開

農業に参入した企業の例



2方式で農地を有効活用



何でも知りたい
神田かぶとくん

やりくり上手の
永田かすみさん

戸井さん「スーパーでは野菜くずなどの生ゴミが多く出ますが、あまりリサイクルさ

待もある」
参入には、農村の担い手不足を解消する糸口になるとの期待もある」

れていません。生ゴミを原料に肥料を作って、それで野菜を育て、リサイクル率を高めようと考えました。自前で生産すれば、栽培の状況が詳しく分かり、消費者の安心感も高められると思います」

松下さん「農地リース方式は、担い手不足解消の目的で2005年に本格的に始まりました。過疎化や高齢化により耕作されない農地が、全体の1割ほどもあります。そのような農地を企業に貸し出して農業をしてもらい、荒廃を防ぐねらいです。08年3月1日現在、全国で281社が参入し、なかには農業が本業になった会社もあります」

かすみさん「企業は利益が出ないとすぐ撤退しそうです」
三輪さん「今まで失敗した企業は、農業の知識が十分でないまま参入したケースがほとんどです。地元の農家とノウハウを出し合えば、問題は解決できます。食料価格は長期的には値上がり傾向が続くでしょう。少々高くとも安心できる食品を買う人が増えていきます。農業は事業として有望だといえます」



補習

地域に密着の 人材確保力ギ

生産法人を10法人程度に増やす方針ですが、いずれも中核的農家の人々を社員として雇う形になるでしょう。毎月、給料が支払われるので、安心して農作業に専念できます」

博士「農業に参入する企業にとって、人材の確保と育成が課題になりそう」
三輪さん「景気の悪い地方では、職に就けず困っている若者も少なくありません。こうした人材を集め、地域の中核となる農家に指導してもらう方法を提案します。地形や天候が地域ごとに異なるため、農作業のやり方なども微妙に異なります。その土地を知り尽くした人でないと指南役は務まらないでしょう。地域密着の姿勢が欠かせません」

戸井さん「イトーヨーカ堂では、向こう3年で農業の」
博士「人材サービスの対象として、農業に着目する企業も登場している」
パソナグループ取締役の山本絹子さん「9月に兵庫県の淡路島に、農業に携わる人材を育成する農場を開きました。ここで3年間研修生として働き、4年目に独立する形です。農業に参入した企業などに、修了した人を派遣、紹介することも視野に入れています」
かすみさん「農業という大きな可能性が潜んでいるのです」